

近畿大学病院へご紹介いただいている諸先生方へ

謹啓、時下、ますますご清栄のことと、お喜び申しあげます。平素より当科に格別のお引き立てをいただき心からお礼申しあげます。

さて、この度は炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎・クローン病）および胃癌・大腸癌（特に抗がん剤治療対象）の患者さんのご紹介をお願いいたしたくお便りを差し上げる次第です。

下痢、血便、腹痛などを主訴とする炎症性腸疾患は、増悪と改善を繰り返す難病です。安定した生活をおくるためには適切な治療を行い、できるだけ早く症状を改善させ、そしてよい状態を長く維持することが大切です。近年、従来のステロイド以外に、免疫調整薬、生物学的製剤、血球成分除去療法など様々な治療が開発され、治療の進歩の著しい領域です。

食道癌・胃癌・大腸癌に対する治療の進歩は目を見張るものがあり、新規薬剤や分子標的薬の登場により転移を有する大腸癌患者さんの生存率は改善しています。外科、放射線科との連携により集学的治療を実践し、質の高い抗がん剤治療を行っております。PET 検査も積極的に行っております。また内視鏡治療は低侵襲治療として生活の質の向上に貢献します。

当院では、保険収載されている治療に加えて、患者さんのご希望に応じて新規治療薬の投与や生物学的製剤の血中濃度測定や遺伝子解析など大学病院ならではの新しい診断と治療に取り組んでいます。また医師、看護師、管理栄養士がサポートチームを結成し患者さんの日常生活を支えるために様々なサービスを提供しています。

日常診療におきまして、炎症性腸疾患や食道癌、胃癌、大腸癌（特に抗がん剤治療対象者）を疑う患者さんがおられましたら、是非ご紹介頂けます様宜しく願います。

また、バルーン内視鏡検査および小腸・大腸のカプセル内視鏡検査も南大阪では唯一当科のみで行っております。患者さんに苦痛の無い検査です。是非ご紹介ください。

謹白

近畿大学医学部消化器内科学

主任教授（光学治療センター・センター長） 工藤 正俊

教授 樫田 博史

教授 辻 直子

准教授 渡邊 智裕

講師 米田 頼晃